絶句（四季）　―訓読―

春暁

孟浩然

春眠暁を覚えず
処処啼鳥を聞く
夜来風雨の声
花落つること知る多少

江南春

杜牧

千里鶯啼なきて緑紅に映ず
水村山郭酒旗の風
南朝四百八十寺
多少の楼台煙雨の中

秋風引

劉禹錫

何れの処よりか秋風至る
蕭蕭として雁群を送る
朝来庭樹に入り
孤客最も先に聞く

江雪

柳宗元

千山鳥飛ぶこと絶え
万径人蹤滅す
孤舟蓑笠の翁
独り釣る寒江の雪